

北海道札幌手稲高等学校

課程 全日制
学科 普通科
生徒数 960名

1 取組の特徴

本校では、生徒一人ひとりの進学実現を図る一方で、これまでも教科や健康教育等でストレス対処法、悩みを一人で抱えないことなどの指導を行ってきた。

平成24年度は、生徒理解支援ツール「ほっと」を実施し、臨床心理士など専門家の活用を図りながら、生徒のコミュニケーションスキルの向上を目指すとともに、心理的問題を抱えやすい時期を迎えている生徒に対して、予防的に支援する取組を行った。更に、教員、保護者に対しては、高校生の心理の特徴に関する情報提供を行い、支援スキルアップを図った。

2 取組のねらい

- 1 生徒理解支援ツール「ほっと」を実施し、生徒のコミュニケーションスキルの向上と教員の支援スキルの向上を図る。
- 2 保護者を対象とした臨床心理士等の講演を実施し、青少年の心理や行動に関わる情報提供と、子育て支援の機会を設定する。

<組織図>

道研・札幌医科大学

校長 教頭 健康安全部 2年次
1年次
1、2年次保護者
スクールカウンセラー

3 取組の経過

- | | |
|--|---|
| 5月 宿泊研修(集団カウンセリングの実施) | 12月 2年次保護者対象 講演「大学受験をめぐり親子関係」 |
| 7月 生徒理解支援ツール「ほっと」実施性に関する講演会(デートDVについて) | 1年次LHR「コミュニケーションスキルトレーニング」 |
| 8月 生徒理解支援ツール「ほっと」理解のための校内研修会 | 教員対象 校内研修会「若者の易傷性とその周辺」(自死予防トレーニング) |
| 9月 1年次保護者対象 コミュニケーションに関する講演会と本事業の概要説明 | 1月 1年次総合 講演・演習「仲間づくりの楽しさ、むずかしさ」(自己開示と緊張への対処法) |
| 1年次通信「コミュニケーションスキルを養うために」(ステップアッププログラムの取組始まる)の発行 | 生徒理解支援ツール「ほっと」実施 |
| 10月 薬物乱用防止教室 | 2月 1年次対象 本事業に関するアンケート(評価) |
| 2年次保護者対象 講演「高校生の発達課題と親の役割」 | 1年次通信「コミュニケーションスキルを養うために」(ステップアッププログラムの取組を終えて)の発行予定 |
| 生徒理解支援ツール「ほっと」活用のための研修会(管内道立高校に案内) | |

4 取組の内容

1 生徒のコミュニケーションスキルトレーニング

- (1) 宿泊研修時の集団カウンセリング「人間知恵の輪」
- (2) LHR「コミュニケーションスキルトレーニング」
1年次に実施した「ほっと」の結果、「拒否」について低い数値であったため、学校生活でおきる断りにくい場面設定プログラムを作成し、トレーニングを行った。生徒は「コミュニケーションを取ることに困難を感じていたが、どのようにすればよいか具体的になった」という感想を述べていた。(写真 右上)
- (3) 総合的な学習の時間「仲間づくりの楽しさ、むずかしさ」



1年次に実施した「ほっと」の結果、「助言や注意」が低いことと「緊張」が高いことから、札幌医科大学の吉野淳一教授に自己開示と緊張への対処法について講演・演習を行っていただいた。生徒からは「リアクションのバリエーションが増えた」という声が寄せられた。

2 教員の支援スキルアップ

- (1) 生徒理解支援ツール「ほっと」の研修会
「ほっと」の構造と結果の活用方法について、生徒指導・学校安全グループ渡辺淳一指導主事を招いて研修を行った。



- (2) 校内研修会「若者の易傷性とその周辺」

札幌医科大学の吉野淳一教授から「傷つきやすい若者」の症例を中心に「新型うつ」の特徴対応について講義をいただいた後、ロールプレイで自死予防トレーニングを行った。(写真 右中)参加者からは「講義だけでは理解できないこともロールプレイすることでそれぞれの立場での考え方、感じ方を実感することができ、受容と傾聴、共感などの意味を理解できた」という感想が多く出された。

3 保護者への青少年の心理や行動に関わる情報提供と子育て支援の機会の設定

- (1) 1年次の保護者には、スクールカウンセラーからの講演「高校生のこころ模様」(写真 右下)の後に教頭が本事業の概要説明を行った。参加者からは「心の教育やコミュニケーションへの取組はありがたい」という声が寄せられた。
- (2) 2年次の保護者には、教頭から発達課題や大学受験期の付き合い方の講演を行った。参加者からは「子どもとのほどよい距離感やかかわり方など改めて考えさせられた」という感想が出された。



5 次年度に向けて

1 成果

- (1) 中途退学者数及び不登校生徒数の推移
支援体制が一層充実し、予防的な効果があった。
- (2) その他の指標による評価
事業実施後の生徒へのアンケート調査(記述)から、実感が得られる内容の演習であったことから、人とのかかわりに関心を持ち、自己開示や拒否スキル、緊張の対処法を生徒は獲得できた。
- (3) 子ども理解支援ツール「ほっと」実施により把握した生徒のコミュニケーションスキルの概況
「挨拶・感謝」「発言・説明」「仲間づくり」「リーダーシップ」「ルールやモラル」は高いが、「拒否」「助言や注意」が低く、また「緊張」が高いという特徴があった。
- (4) 生徒の変容した姿
「ほっと」の結果から、趣味や性格について友達に話すなど自己開示できる生徒が増加した。

2 課題

- (1) 各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動等教育活動全般にわたるコミュニケーションスキル活用場の設定
- (2) 実践的コミュニケーションスキルトレーニングの指導力の一層の向上

3 次年度に向けて

- (1) 子ども理解支援ツール「ほっと」を活用し、個別支援に重点を置いた学級・学年経営の改善
- (2) 臨床心理士等の専門家を活用し、事例検討や研修会の充実を図り、高校におけるストレスマネジメント、コミュニケーションスキル育成のためのカリキュラムの開発
- (3) Webページ等による本事業の取組についての情報発信